



NO 8
2023
令和5年11月

国史跡 利神城かわら版

編集・発行
佐用町教育委員会教育課
〒679-5380
兵庫県佐用郡佐用町佐用2611-1
☎0790-82-2424

町は、利神城跡の確実な保存と適切な活用を図るため、具体的な整備基本計画づくりに着手。9月27日、石垣や史跡整備、景観、地盤工学、建築などの分野による初の専門委員会(座長 藪田貴氏)を開催しました。今号では、計画の内容構成(案)と、保存にあたって最も検討を要する石垣と樹木の管理方針、豪雨対策、管理体制に関する各委員のご意見の一端を紹介いたします。

「雲を突く石垣の城」を守り活かす

整備基本計画策定の専門委員会が協議スタート

史跡利神城跡整備基本計画の内容構成(案)

文化庁が示す「史跡等整備基本計画—標準となる構成—」に基づき、想定した内容案のため、今後、委員会協議を経て再構成します。

第1章 整備基本計画策定の経緯と目的

1. 計画策定の経緯・目的 2. 計画策定の体制 3. 上位・関連計画

第2章 史跡利神城跡を取り巻く環境

1. 自然的環境 2. 利神城・周辺に関する歴史 3. 社会的環境

第3章 史跡利神城跡の概要

1. 史跡指定状況 2. 利神城の歴史の変遷 3. 既存調査概要

第4章 史跡利神城跡の本質的価値

1. 史跡の本質的価値と構成要素

第5章 史跡利神城跡の現状と課題

1. 応急処置状況 2. 遺構等保存の現状と課題 3. 公階活用の現状と課題 4. 広域関連計画

第6章 整備の基本理念と基本方針

1. 整備の基本理念 2. 整備の基本方針

第7章 整備基本計画

1. 整備地区計画と整備方針

2. 山城中心地区整備計画 3. 御殿屋敷地区整備計画

4. 山城山林地区整備計画 5. 別所構地区整備計画(今後保護を要する範囲)

6. 動線計画 7. ガイダンス及び案内・解説施設に関する計画

8. 管理施設及び便益施設に関する計画 9. 環境保全に関する計画

10. 地域全体における城郭関連施設等との整備活用に関する計画

11. 整備事業に必要な調査等に関する計画 12. 管理運営に関する計画

13. 事業計画(事業の内容、実施時期などを示す)



▲9月27日、兵庫県立歴史博物館で開催した専門委員会

◆かけがえのない本物を守る

【西形委員】利神城跡の石垣の管理のあり方は、変形が著しい、石材の抜けが見られるなどの危険箇所以外は現状保存を基本方針とすべきだ。

【北垣委員】利神城跡を整備する上で重要なのは、かけがえのない本物を守る。そのためには、先人たちが遺構に残した伝統技術や土地の良さを再確認することが欠かせない。

◆豪雨に耐える排水処理が必要

【北垣委員】近年多発している線状降水帯による豪雨に耐えるためには、早急に排水処理を施して石垣の崩壊

を止める必要がある。

【西形委員】天守の上部に水を入れない処置が必要。そして天守からの水を二の丸と三の丸で排水することが重要である。

◆樹木管理によって石垣を見せる

【福井委員】今後、樹木を管理する上で、『利神城古図』に描かれているヤマザクラがある風景を想定するのが良い。また、ナラ枯れ対策と石垣を見せる植生管理がポイントである。

【山上委員】利神山本来の植生を想定し、石垣斜面に悪影響を及ぼす樹木は管理しながら、山城の周囲は本

来の植生に長期的に戻す、あまり手間のかからない整備のあり方も要検討であろう。

◆整備と管理に必須の人材と資金

【水島委員】利神城跡の整備と管理を支援してくれる団体の育成と、支援団体の意見を整備計画に盛り込んでいく取り組みが必要。また、情報発信面で、「かわら版」をホームページのみならず掲示してご覧いただく方法を検討いただきたい。

【山上委員】管理運営にかかわる人手不足が深刻である。しかし幸い、県内には中世山城が多く住民の関心

●利神城跡整備基本計画策定 専門委員名簿

所属機関・職	氏名	専門分野
大阪観光大学教授	小野健吉	史跡整備
金沢城調査研究所名誉所長	北垣聡一郎	石垣
関西大学名誉教授	西形達明	地盤工学
京都府立大学大学院教授	福井 亘	景観
明石工業高等専門学校教授	水島あかね	建築
兵庫県立歴史博物館長	藪田 貴	文化遺産
兵庫県立考古博物館 名誉学芸員	山上雅弘	山城研究

も高い。県内の史跡との連携も一考すべきで、兵庫県の支援を望む。

【福井委員】継続して史跡を整備するには自主財源が要る。来訪によって収入を獲得する方策を検討すべきであり、その収入を整備につないでいく経済循環が継続の力ぎである。

◆第1回専門委員会を総括して

【藪田座長】まずは、石垣の状態を目視で判断する予備診断を行い、その結果を共有し、石垣をどのように活用していくのか、そして石垣の価値をどのように守っていくのか、今後議論していくことが重要である。

(注) 紙面の都合上、会議内容の一部のみ掲載。小野委員は欠席。